

湯飲みを削る(1)

削りがうまくできるようになれば、陶芸は3倍楽しくなります。コツは3つ。

- ①作品を中央に置くこと
- ②作品をきちんと固定すること
- ③カンナの刃の向きに注意すること

①



湯呑みの形をよく見て、あうシッタを探します。器のかべでなく、底で受けるシッタを探します。素焼きのシッタは固定しやすくするために底を水で濡らしてください。

②



ろくろを回し、シッタの中心を合わせます。左の黒線がぶれなくなったら、中心に置かれている事になります。しっかりと止め土でとめ、湿らせたサラシをかぶせ、輪ゴムで止めます。

③

①底がほぼ水平であること



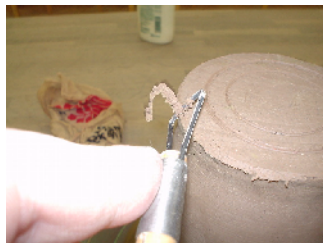
②器の腰のゆれが少ないところ

ゆのみをかぶせたら、まず底がほぼ水平になるように置きます。水平になったら、ろくろを回し、器の腰がゆれが一番少ないところにあわせます。



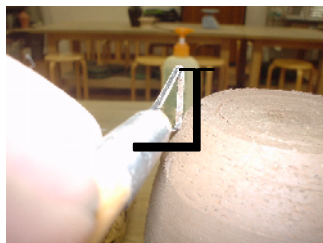
位置が決まれば、ずれないように、軽く上から押さえます。

④



高台の線を2本入れます。まず外側を削ります。できるだけろくろを回しながら削ってください。カンナは作品に対し、刃が垂直になるように持ちます。

⑤



左のように角を大きく落とすように削れたら、カンナを斜面の中ほどに垂直に入れ、高台を出します。最初は5、6ミリの高さにします。(あとで、厚さを見て、再度調整)

湯飲みを削る(2)

中心さえあえば、ろくろを回し、カンナをあてるだけで、どんどん削れていきます。これが結構楽しい。ろくろを回しながら削る時は、カンナを持っていない方の手の指で、器の中心を軽く押さえ、親指を削るほうの手に触れさせてください。ぐっと手が安定します。

①



上に書いたように、回しながら削る時、必ず(右利きの場合)、左手の中指を作品の中心に置き、親指で右手に触れてください。

②



高台の高さが出たら、高台の内側を削ります。
カキベラ(小さなカンナ)で、描いた線のやや内側に沿うように溝を掘ります。

③



溝ができたなら、こんどは中心から渦巻状に底の土を削ります。
その後、カンナを水平に当て、底を平らにします。

④



高台まわりがきれいになるように、軽く削ります。時々器をはずして厚さを確認してください。厚ければ、元に戻し、もう少し削ります。

⑤



削りが終わって、削り跡が気になる人は、スポンジで水分を与え、コテで表面をなでます。

⑥



出来上がったら、きちんと見てみましょう。壁から底にかけて、厚さが一定になるように！